

交流活動(ヨ)

「龍谷の森」里山保全の会の記録

丸山 徳次

- 2008年4月19日(土) ツツジ山づくり
- 2008年5月17日(土) 名札付け作業
『暮らしの中の造形展－田上耕と手拭』「綿繰り・原始機の体験、実演」会および東郷正文氏(田上郷土史料館館長)の講演会に参加
- 2008年7月12日(土) ササユリ追跡調査・ムベの棚づくり
NPO法人森の風音主催シンポジウム「びわこ文化公園をみんなが憩う里山に」に参加
「龍谷の森」里山保全の会主催「懇親会」(交流会)
- 2008年10月26日(日) 「おおつ市民環境塾」との連携
- 2008年12月20日(土) 落ち葉堆肥をつくる
- 2009年1月17日(土) 落ち葉堆肥をつくる(おおつ市民環境塾と連携)
- 2009年2月21日(土) 「おおつ環境フォーラム・おおつ市民環境塾」および里山ORCと共催による報告会(公開パネルディスカッション)
- 2009年2月28日(土) ホダ木づくり
- 2009年3月14日(土) ホダ木づくり

「龍谷の森」里山保全の会は、2008年度、上記のような例会および特別のイベントを開催しました。今年度特記すべきは、「龍谷の森」での保全活動を午前中に行ったあと午後から他のイベントに参加するという複合した形式をとった会が2回あったこと、また、「おおつ市民環境塾」との連携が始まったことです。

5月17日の場合、午後から里山ORCが主催した『暮らしの中の造形展－田上耕と手拭』の展覧会を観ることと、「綿緑り・原始機の体験、実演」会および東郷正文氏の講演会に参加しました。さらに、この展覧会の開催記念パーティーが開かれましたので、「龍谷の森」里山保全の会のメンバーの方々にも出席していただきました。

7月12日には、午後からNPO法人「森の風音」が主催したシンポジウム「びわこ文化公園をみんなが憩う里山に」（龍谷大学瀬田学舎2号館202教室）に参加しました。また、シンポジウムの後の懇親会を、「龍谷の森」里山保全の会が主催し、「森の風音」のメンバーの方々と交流する機会をもちました。

このシンポジウムを主催したNPO法人「森の風音」は、瀬田丘陵の一面をなす文化ゾーン内にある「びわこ文化公園」（約20ha）において保全活動を行っているグループです。滋賀県はびわこ文化公園のリニューアル事業を2008年から5年間にわたって行うことを計画しており、県民の意見を広く聞きながら、自然を生かした公園整備計画を進めたいということで、今回のシンポジウムでは、びわこ文化公園整備事業の概要を紹介した上で、公園に隣接する龍谷大学3学部の教員や公園内で環境ボランティアを続けてきたNPO法人が話題提供し、公園整備について行政と共に協議したい、というのが趣旨でした。次のような人びとが登壇しました。

話題提供者：宮浦富保（龍谷大学 理工学部）

金子龍太郎（同 社会学部）

壽崎かすみ（同 国際文化学部）

村島治平（NPO法人森の風音）

指定討論：苗村光英（滋賀県 土木交通部都市計画課）

中野博之（大津市 環境部環境保全課）

龍谷大学瀬田キャンパスを挟んで「龍谷の森」と「びわこ文化公園」とが対峙するような形で同じ瀬田丘陵に位置しながら、これまで「龍谷の森」里山保全の会と「森の風音」とはまったく交流してきませんでした。本シンポジウムにパネリストとして参加した里山ORCの宮浦富保センター長が強調したように、瀬田丘陵（瀬田山）の全体を見ることが極めて重要であって、都市公園と保安林といった行政上の管轄区分へのとらわれから脱却する保全の方法論と手法を追求する必要があるでしょう。まずは市民レベルの交

流が必要ですし、大学はその媒介者になりうるし、なるべきだろうと思います。

「おおつ市民環境塾」との連携については、江南和幸氏の報告文を参照願います。